

カンボジア
中央カルダモン森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2017年8月
コンサベーション・インターナショナル



©Conservation International/Photo by Kheng Sokhorn

4月から7月にかけて、環境省と協力してパトロールと違法行為の取り締まりを行い、中央カルダモン国立公園の管理をサポートしました。生物多様性研究や、コミュニティの支援も行いました。

パトロールと違法行為への対応

今期は、のべ 158 回のパトロールを実施しました。その結果、56 立方メートルの木材、61 台のチェーンソー、3 台の車両を没収し、殺された野生動物 16.6kg 相当を回収、3 匹のセンザンコウ(後にプンタマウ野生生物保護センターへ譲渡)を保護し、92 個のわなを撤去しました。これにより、野生生物を運んだり、土地(16.419 ヘクタール)を違法占拠しようとしていた 86 人を現場で逮捕したり罰金を科したりすることができました。またアロワナ(ドラゴンフィッシュ)の生息地の境界を示す 30 個の看板を立てました。州の環境局と近隣で森林保全を実施する国際 NGO のワイルドライフ・アライアンスと共に、共同パトロールの実施やレンジャーの能力を向上に向けた相談を進めています。

トレーニングを受けるレンジャーたちが選ばれました。ココン州 (Koh Kong)、コンポンスプー州 (Kampon Speu)、ポーサット州 (Pursat) 内の中央カルダモン国立公園の境界線に関するトレーニングに 10 名、野生生物調査の技術と識別のトレーニングに 12 名が参加します。また、公園の管理と作業計画のための会議を毎月行っています。

生物多様性の調査

カンボジア自然史 (Cambodian Journal of Natural History: CJNH) に掲載された『カンボジア南西部のカルダモン熱帯雨林地域に生息する地上棲哺乳動物の保全状態と意義』についての論文の作成に貢献しました。

今期は、監視サイトを設立する手順を確定し、調査方法を決定するための実地試験を行いました。監視サイトは、生物物理的な詳細データに基づいて設定された、長期間の環境モニタリングポイントです。集められた結果を分析し、コミュニティの生計や収入の変化と比較し、最終的には対象地域に影響を及ぼす取り組みや政策に情報を提供します。このようなシステムを導入するのは、カンボジアでは初めてのことです。

コミュニティの代替生計手段

コミュニティ主導型のエコツーリズム (Community Based Eco-tourism): 7 月の初めに、16 人のオーストラリアの学生が Areng 谷 (Thmo Don Pov と Ta Tay Leu) を訪問しました。生物多様性の豊かさを実際に見て、自然資源管理にコミュニティが参加する過程を理解することが目的です。



Areng 谷を訪れる学生たち



野生生物の生息地について学ぶ学生たち

©Conservation International/Photo by Kheng Sokhorn

アグロフォレストリー: 3 つの村 (Tatay Leu、Russeï Chrum、Thma Doun Pov) から 12 人の住民が、5 月にケップ州で行われた沈香 (アガーウッド) のワークショップに参加しました。参加者たちは、病気予

防のための処置や収穫の仕方などの技術的なトレーニングを受けました。今後数ヶ月にわたって、中央カルダモン国立公園内の3つの村のエリアで実地訓練を実施する予定です。15本のアガーウッドの木を所有する、Thma Doun Povの3家族が最初にトレーニングを受ける対象に選ばれました。Tatay LeuとRussei Chrumからそれぞれ2家族が選ばれ、Thma Doun Povでのトレーニングにオブザーバーとして参加します。



トレーニングの様子

地産品と企業を結びつける: 自然栽培の産物を販売するポンペンの小売業者であるグリーンガーデンとTatay Leu村の生産者を引き合わせました。CIの主導により、グリーンガーデンと村人とで話し合いが持たれ、農産物をポンペンへ移送する方法や支払方法を決めました。

コミュニケーション

プロジェクトの成果や課題、保全のキーポイントなどを紹介する [フェイスブックのページ](https://www.facebook.com/CIGreaterMekong/posts/?ref=page_internal)
(https://www.facebook.com/CIGreaterMekong/posts/?ref=page_internal) を作成しました。

環境省は、中央カルダモン国立公園の四半期ニュースレターの発行について見直しをしており、来期には改訂版が発行される予定です。

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。